

めだかの学校だより

平成20年8月1日
第61号

学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：静岡県磐田市
家田 529-20
TEL0539-62-6691

校長訓話

第六十一回 校長 濱田 綾子



「出会いがないと始まらない」

前回の大学院に出席して、めだかの学校の歴史を肌で感じました。人との出会い、人との温もり、人の優しさ・・・何故めだかの学校の生徒達が元気に登校してくるのかが解りかけています。今回で4回目の私がエーっ?!校長?! わけも分からずやっています。

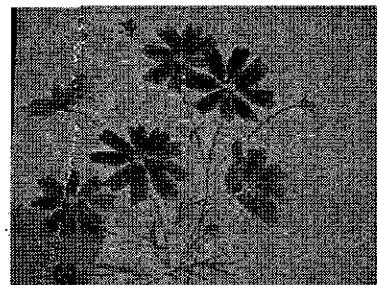
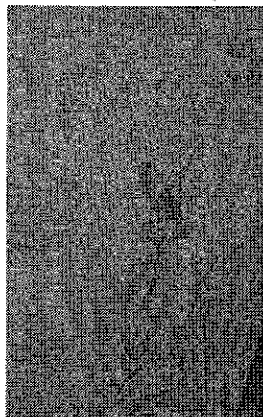
60億とも言われている人々の中で、人が一生の内に会える人々は何人ぐらいでしょうか?その内の何人と親しく交わる事が出来るのでしょうか?人の出会いと不思議をいつも感じています。この人に出会えなかったら違う人生だった・・・と感じる人生は出会いと別れの繰り返し返しの様にも思えますが、その中で影響を受けた皆さんの事を学んでいけるような気がします。

一人の力は本当に限られています、でもみんなの力が集まれば、その力は何倍にもなつて多くの事を成し遂げられる、それを可能にするのに必要なのがいいだしっぺ、模範になるリーダー、システムづくり(役割分担)でしょうか?そのすべてが揃っためだかの学校のメダカとして、ここでしか出会えないであろう他のメダカさん達と仲良く楽しく同じ時を過ごし、学べる事への感謝を忘れず元気に泳ぎ回っていきたいです。

そんな私が今はまわっているのが篠笛、竹に穴を開けただけなのにあの細胞の1つ1つに染渡る音色は心を癒し、自然に抱かれています心地にさせてくれます。その学園藤枝の和の手描き教室の講師、手描き工房あやいを主宰し着物やタペストリーに絵を描く仕事をしている私ですが、20代のころ 三太 大河ドラマ宮本武蔵のお通さんの笛を聞いていつか私も笛を吹いてみたい・・・と思っただけで以来25年が過ぎてしまいました。しかし思っただけでは時期が訪れるもので昨年9月のある出会いから尺八の演奏家縄巻修巳氏(藤枝在住)に指導を受け、先生のようにジャンルを問わずどんな曲もこなしてしまおう演奏が目標です。

磐田笛の会も設立し、尺八や篠笛の好きな仲間が6人で練習しています。《この素晴らしい日本の文化を広め後世に伝える》

という使命感をもって家族の迷惑を省みず練習に励み、絵に疲れると笛を吹き、笛に疲れると絵を描くという至福の日々・・・
笛は生涯の友そしてめだかの学校の皆様とも生涯の友になりたいと願っています。
素敵な出会いに感謝です。



めだかの学校伝言板

——第61回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／濱田綾子

教頭／太田民次

用務員／徳増兼弘

給食係／水野忠義、村木謙弼、加藤直樹、萩田博、
大貫正信、石野省三、島田尚子、尾上美智子、
今村純子、大谷香代子、牧野久子、
渡辺三ツ子(チーフ)

*今回は独断と偏見で書きました、お赦しを!

<学舎> 静岡県浜松市北区引佐町東久留女木観音山
みどりの郷キャンプ場 TEL なし

開校日／平成20年9月5日(金) 6:20PMより
受付／三輪邦子、若森光子、内田貴久、斉藤昭(後見人)

<時間割>

あなたはどんな界を越えましたか?

～16期は『自助と共助』共に助け・助けられる心とは～

- 1時間目 倫理社会 鈴木武史先生
「全国をまたにかけのお祭り男のご縁の心とは」
- 2時間目 美術 鈴木正士先生
「大平荘 鈴木正士流おもてなしの心とは」
- 給食の時間～お月見ご膳?～
(お箸はマイ箸、ご持参を!)

10:30 閉校

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■めだかがナマズのお守り

この4月の定期異動で、中遠農林事務所から藤枝総合庁舎にある「中部地域防災局」に勤務することとなった。予想されている「東海地震」をはじめ各種の災害に備えて、普段は事前の防災対策や訓練を行い、万が一災害が発生したときは、情報収集や救護などの災害対策を行うセクションである。乱暴な言い方をすれば、「ナマズのお守り」である。防災専門の出先機関を設けているのは全国的にも静岡県だけであり、地域の安心安全の確保と、起こっては困るが実際の災害時の迅速な対策を、どこよりもしっかりとできるようにしなければならぬと考えている。

そんな業務の性格上、住まいは徒歩でも30分以内に登庁できる範囲にせよという居住制限がかかっている。このため、袋井の実家から、藤枝市内での約30年ぶりのアパート生活をとなった。単身赴任も仕方がないかなと覚悟はしたが、幸いにも子供はようやくみな独立し同居の両親もまだなんとか自活できるということで、自分たち夫婦で藤枝市に住むことになった。しかし、袋井の実家は細々ながらお茶の栽培を続けているので、収穫作業などがあるときは家内が実家に戻り、単身赴任状態になるのである。

そこで、これまでほとんどやったことのない自炊に挑戦することにした。実際に自炊を始めてみて、最初に困ったのは、作り方がわからないことよりも、まず何を作るかと思いつかないこと

あった。すなわち、何を食べたいか、何を食べるかがわからないのである。好き嫌いの余りなく、食へのこだわりも薄く、出されるものを食べてきていた。「今夜何が食べたい？」と家内に聞かれても、いつも「わからん、なんでもいい。」とつれなく答えていた。何を食べるかを自分で決めなければならなくなっても、情けないことに自分で何を食べるのが決まらぬ、そして分からぬのである。

悩んだ末にようやく何を食べるかを決めて、次に困ったのは、材料の量である。自分で作れそうなメニューを決めて材料を調達に向くと、野菜や肉も魚もすべての主材料や調味料が、一人世帯の食限りのパッケージになっていないのである。家内の手料理で長い間通してきたことから既成品は余り口に合わないこともあって、自分で作ることにこだわっているが、買い物のときに、捨てずにはむ量だけが気になって、値段や産地、鮮度や賞味期限までは、とても気にしていられなくなるのである。

これまでに作ったのはカレーやチャーハン、マーボー豆腐に牛丼などであるが、料理は楽しい。まだまだ、他人に食べてもらえる料理はできないが、「ナマズのお守り」をしているうちに、腕を磨きたいと考えています。皆さん待って下さい。

（なんでもあり農園小作人の松）

■第26回地域づくり団体

全国研修交流会 愛媛大会
平成20年11月14日(金)・15日(土)の2日間、愛媛県宇和島市の南予文化会館で開催される。分科会は第1分科会の八幡浜市から15分科会の伊予市まで「みちと町八幡浜の再生」「町並みを生かしたまちづくり」「村の風景づくり」「地域づく

りが観光資源」「しずむ夕日が立ちどまる町」など、15の分科会に分かれて、地域づくりの意気込みを語り合う。まさに人的交流の宝庫。足元を照らすためにも飛び出せめだか!

日程は、11月13日(木) 前夜祭17時～宇和島市。11月14日(金) 全体会(9時受付)南予文化会館。12時10分から13時30分各分科会に分かれての昼食交流会。14時頃から各地の会場に分かれての分科会。11月15日(土) 9時～14時頃まで分科会。会費は大会参加費が7,000円、昼食交流会費1,000円、現地経費(宿泊費など)6,350円、6,000円。申し込みはめだかの学校事務局 榊原まで。0539・62・6691×切は9月10日(水) 必着。内容が知りたい生徒は、事務局までご連絡下さい。

■第6回「全国まちづくり交流会IN足助」

「全国まちづくり交流会」が愛知県足助町で10月31日(金) 17時(前夜祭)～11月2日(日)までの3日間行われます。31日は17時前泊者チェックインで前夜祭。11月1日(土) 13時受付(於足助交流館) 13時30分第6回全国まちづくり交流会、15時40分シンポジウム「ダイヤモンドの原石をどう見つけるか」、17時終了。17時30分交流懇親会(於百年草)、20時～ライトアップ見学、20時30分交流会第2ステージ(秋の夜長朝までトーク)などです。お問い合わせは、めだかの学校事務局榊原まで0539・62・6691へ。希望者は直接要綱を足助観光協会から送ります。

■森町掃除に学ぶ会の講演会と20年度年次大会開催のお知らせ

●中村文昭さんの『でっかい子育て、子育て』1心の元氣を取り戻す秘薬とは?。子どもを教育する秘薬とは?。9月14日(日)19時、森町文化会館大ホール。入場料1,000円(中学生以下無料)。お申し込み問い合わせ。おさだ製茶0538・85・3003まで。

●日本を美しくする会・第2回「森町掃除に学ぶ会20年度年次大会」。9月21日(日) 8時～12時30分。森町谷中の森町立旭が丘中学校7時受付、8時開会式、トイレ掃除、昼食、閉会は12時半。参加費1,000円(お茶とお弁当)。用意するもの長靴と汗拭きタオル。問い合わせは事務局0538・85・3003おさだ製茶まで。代表世話人は榊原淑友めだかです。

■第4回黎明フォーラム

『協働のまちづくり』
磐田市敷地(旧豊岡村) 地域では、地域をあげて協働のまちづくりに取り組んでいる。この4月豊岡地区に初めての市立公民館が開館したこともあって、豊岡東公民館を会場に、10月19日(日) 午前9時半～午後2時まで、黎明フォーラムを開催する。基調講演は第1回から関わりのある県観光局観光振興室の溝口久めだかがする。パネルディスカッションでは、白壁館の社長で地域リーダーの乗松洋一さんをはじめ4人のパネリストが語り合う。昼食は地元産の敷地米や地域の食材をふんだんに使ったバイキング。会費は昼食代込みの1,000円。定員は150名。問い合わせ申し込みは豊岡東公民館0539・62・6699まで。ちなみに豊岡東公民館々長は榊原幸雄メダカ。

■めだかの学校課外授業

『都田川水源まつり』
8月24日(日) 午前9時、浜松市北区

引佐町の「いなさ湖野外ステージ」に集合して『都田川水源まつり』を行います。今回は探検隊ではなく、湖畔を1時間ウオーク、10時からステージの花壇の手入れ、お昼はみんなでカレーを食べて、水辺で魚釣りして楽しみます。お孫さんも連れて出席を！。会費500円（保険代とお昼代）。子供は無料。草刈機、クワなど花壇作りの道具を、軍手とシャベルは用意しています。問い合わせは0539・62・6691事務局まで。

■学舎の草刈と清掃

8月31日（日）午前9時に学舎に集合。草刈りと清掃をします。ひと汗かいたあとは、木陰でお弁当。是非ご参加を！。9月5日はキレイキレイでの授業。テーマは『共に助け、助けられる』です、ハイ。

「人・ひと・ヒト」だより

『15周年記念誌の発行』

ひとりでも多くの人を載せたいと、印刷時間ギリギリまで努力し「大学院」までに間に合わせてくれた加藤修一編集長はじめ多くの皆さんに感謝したい。15年誌にはめだかの学校の基本理念や積み重ねられた授業などの歴史、ひとりひとりの生徒の思いが掲載されている。大学院に入校した生徒には資料として全員に配布しました。

今回は「15年誌」に寄せてお便りを頂いてますので、その中からいくつか。字数の関係で省略も。お赦しを。

●立派な『15年誌』拝受。よく作りまします。敬服します。しかし一つだけ文句を言います。榊原さんらから『言葉の使い方』があり、寄稿した多くの仲間たちに『失礼千万』です。あいさつ状の中に「本当は

もつと内容の濃いものを・・・とあるが、言いたいニュアンスは分かるが、直接的に受ければ「今回の内容は薄い・・・」ということですよ。ここは「・・・もつとたくさん盛り込みたかったが・・・」が適切ではないでしょうか？薄い内容に2,000円は出したくない！というのが人情だよね（笑）と言いつつ近日中に送金しますね（浜松市・奥宮教生メダカ）

●このたびは十五周年記念誌をご送付いただき厚くお礼申し上げます。榊原先生のみなみなならぬ情熱に感動いたしました。今回は体調を崩した上に専門書と一般書の草稿と校正に追われ、ご協力できずお許し願います。同封にて代金2,000円と些少ではあります。完成のお祝いを同封いたします。とり急ぎ感謝とお礼のご連絡まで（浜松市・池田誠二郎メダカ）

●15周年記念誌ありがとうございます。私が引佐町の取材に行ったのは確か平成6年4月。めだかの学校が生まれたばかりの頃でした。あれからもう15年。早いですね。伊藤茂男さんのことは本当に残念です。本の代金、後程送らせていただきます。（横浜市・亀地宏さん）

●めだかの学校開校十五周年記念誌を送っていただき有りがとうございました。6月が参加できなくてとても残念に思っています。15年続ける事は大変なエネルギーが必要であろうと思います。10年偉大なり、20年おそろべし、30年歴史になる、と教えていただきました。本当におめでとうございます。冊子代金振込みいたします。（東京・平野尚さん）

●めだかの学校15年誌を送って頂きありがとうございます。これだけの人が集まり素晴らしいですね。・・・4月から違う世界にきて一からスタート。新入生の気分です。・・・さらなる飛躍を期待してます。私も負けな

いよう・・・（藤枝市・西野勝明さん）
●先日は記念誌をお送り下さり有難う。懐かしい方たちのお名前を拝見し、遠い昔（私が校長をさせてい頂きましたのは平成9年だったと知り、驚いています）を幻のように思い出しております。・・・豊橋の地で今は静かに？自分の本当にやりたいう事、ライフワークになるものを探りて探しています。・・・記念誌の代金を送金に行きながら、久しぶりにお便りをさせて頂きました。・・・同封の切手、お使い下されば幸いです。（豊橋市・藤城佐知子元メダカ）

●開校15周年に誠にふさわしい記念誌、じっくり感動し乍ら読ませていただきました。ありがとうございます（名古屋市・山根圭二メダカ）
●めだかの学校大学院開校おめでとうございませう。冊子を送って頂きありがとうございます。いつも連絡ありがとうございます。77歳になって夜の車の運転がおっくうになり、めだかの学校も欠席させて頂いております。よい出会いを頂いたことに感謝、末永くお付き合いを！（浜松市・伊達公一メダカ）

●大学院参加したかったです。また機会がありましたら飛んでいきたいです。ありがとうございます（町田市・照井陽子さん）
●めだかの学校大学院盛況におめでとうございます。そして開校15年誌有難う。人づくり、まちづくり、自分づくり頑張りましょう。（紀州木の国龍神・真砂典明メダカ）

●素敵な冊子ありがとうございます。また大変にお世話になりました。感謝です。（磐田市・井上啓子メダカ）
●立派な本になりましたね。御苦労様です。（浜松市・階堂隆夫メダカ）
●記念誌頂きありがとうございます。在校生当時を思い出しながら読んでおります。いろいろ

ろと大変ですががんばって下さい。（浜松市・杉村頼祐元メダカ）
●15年誌ありがとうございます。勤務先でメダカを飼っています。ご発展を祈ります。（愛媛県東温市・大原佳春元メダカ）
●お世話になります。もう一冊注文したいのですが、お送り頂けるでしょうか。（飯田市・玉置洋一メダカ）

●記念誌の発行おめでとう。「めだかの学校」の一層のご発展を祈念申し上げます。（静岡市・栗原福さん）
●記念誌発行おめでとう。私もまた参加したいと思っております。（名古屋市・川合光久メダカ）

●このたびは「めだかの学校開校15周年記念誌」発行、誠にありがとうございます。皆様の長きにわたる活動に敬服いたします。ただ一方的な代金請求はいかがなものかと存じます。・・・限られた予算の中で貴誌購入の支出名目がなく、いろいろ協議しましたが疑問であるとの声が大半を占め苦慮しました。・・・有料の場合は事前に購入希望の問合わせ等が必要であると考えます。・・・投稿時点とかなり時間経過、校正など配慮が必要で、大変残念です。望みの発刊に苦言を申し上げること、申し訳なく存じます。ご理解を・・・（鳥取県地域づくりセンター・福田京子さん）

※この他にも事務局宛お手紙や、振込み用紙へのお便り、お電話などをいただいております。黙って送り返していただいたもの、「注文していません」と返していただいたもの、「強制ですか・・・」とメールをいただいていたもの・・・など、いろいろな形で対応してくださった皆様に心から感謝いたします。本当に多くの皆様から読んでいただいた15年であったと肝に命じて参ります。ありがとうございます。（言い出しっぺ榊原幸雄）

ピピックス

■遠州七不思議や県西部地域の民話や伝承をまとめた「遠江国怪奇不思議談(とうとうみのくにかいきふしぎがたり)」自費出版

■警田市の郷土史研究家小林佳弘元メダカ。30年間地方文化情報誌「NEOパンブキン」編集長として地方をくまなく歩きつづけた「文化資産」についての著作を一冊にまとめた。「歴史と伝承に包まれた素晴らしい故郷。その伝承を永遠に残したい。郷土史研究の資料や児童生徒への読み聞かせにも対応できる平易な記述にした」というから、まさに郷土愛にみちた小林佳弘元メダカならではの力作。

是非一読を!。B6判で400頁、200話。3,200円。問い合わせは、ばんがきん出版 0538・37・8914へ。
■もう一つのメダカ生の出版物

『不安を自信に変える 而今』
浜松市の心理療法研究所所長の池田誠二郎メダカ。今の厳しい社会、不安をかかえる人のなんと多いことか。心理カウンセラーの著者が永年の経験をもとに不安を自信に変えるヒントを教えてください。

この書、過敏性性格や神経症傾向、また落ち込みやすいうつ傾向などの改善や予防を目的としている。「臨床心理学」というと難しい印象を受けるので、5・6頁ごとに文脈を散文詩風にまとめ、決め手の「一言」を「書」で表現したと。『而今』は以後の意の漢語的表現。

そう、表紙や本文に散りばめられている「一言」は、袋井市の書家、大橋藍舟さんの筆によるもの。大橋藍舟さんは大橋町代

メダカです。本の発売は9月以降、静岡新聞社発行として書店へ並びます。お問い合わせは、心理療法研究所 053・457・5455 FAX同じへ。
■事務局だより

残暑お見舞い申し上げます。毎日がうだるような暑さ。我が家は冷房なし。自然の風を家いっぱいにはいこませよう。暑い。地球温暖化防止は我慢からですぞ!

さて、めだかの学校15周年。開校60回記念「めだかの学校」大学院(6月6日、7日、於方広寺)。西は福岡、東は東京、愛知県足助町からは8人と、県内外から87名の生徒が入校し、開校する。まさに新たな出会いと学びと感動の2日間でした。テーマは「界を超えて」。「めだかはめだからしく」ということから、『めだかしさ』を強調した大学院を目指す。

『めだかしさ』とは、形に捉われない柔軟性。うがつて言えば、論理性欠如のいい加減さかな。『大学院』当日早やばやと実力発揮?。歓迎コンサートの時間になっても草笛の加茂光廣メダカ現われず、なんと境内で参拝客に草笛のサーピスしてた。

開会宣言は「遠く福岡からアツちゃんに来てからアツちゃんに変えよう」なのである。決まったものもその時の雰囲気を変える。本人の了解もなしで。19時からの「界を超えて」あなたが主役のおらが町の地域づくり、あの2人なら大丈夫!と内容も検討せず花井孝、鈴木武史師弟メダカにおまかせ。20時からの、「あなたが主役の大交流会」。司会もはじめだけ、あとは明石ふさ子メダカの踊りと、世田新造メダカの手品、いただいたお酒でワイワイガヤガヤ。2日目の早朝の座禅。静寂の中にピシヤリピシヤリの音、笑いながら教官備

「昨夜はだいが盛り上がりましてね。今日は全員に肩叩きサーピス」。恥ずかしいような儲かったような。という具合。学ぶときは学ぶ
6日15時30分からの哲学者 内山節さんの特別講義、演題は「結びあう思想」。内山節さんの哲学とは、30年以上群馬県上野村半分、東京半分の生活。自然と人間の関係は、自然と人間の関係でできているのではなく、人と人との関係があると自然と自分との関係も変わってくる。現代は説明できないものがいっぱいある。理論的に説明できない深い世界にもどらな

いとけない。
7日(土)のえんため会長稲葉大輔氏の講演もまた然り。浜名湖の観光振興を考える会「えんため」の活動と哲学を熱く語る。「えんため」の「えん」は遠州と円。お金を捻出して継続を図る。そして人の縁のため楽しんでやる。
何かを学びとらうとする目は真剣そのもの。2つの特別講座は『大学院』にふさわしいものであった。(めだかの学校大学院4頁特集号も参照してください)

■大学院の反省と15年誌の配布
6月30日(月)元氣村 味里で開く。いろいろの感想があったが、「おおむね良かった」が大半をしめた。そのあと仮会計報告。15年誌の制作費55万円の支払いと配布方法を検討する。いろいろと厳しい意見も出たが、「15年を区切りとしてリスクを覚悟しての発行でもあり、とにかく出席できなかつた現役生、OB、個人的にめだかの学校と関わりのある人たちに発送することが大事だ」と。それも2000円の郵便振込みをつけて。少しでも失礼のないように。と。手書きの「大学院 4頁特集号」とあいさつ文。それでもまだ気持ち揺らぐ。7月15日までに220通発送する。

通常開校日に3役を決め、職員会議を開いてテーマや先生、授業内容を定めるが、今回は数人の職員と相談して決める。校長濱田綾子、教頭太田民次、用務員徳増兼弘、びつくりの顔が見えるよう、お赦しを。テーマは「自助と共助」。助け、助けられる心とは。一時間目 倫理社会「全国をまたにかける祭り男の心」の縁の心とは。鈴木武史先生。二時間目自然科学「大平荘鈴木正士流おもてなしの心」鈴木正士先生。
■今回もお礼とお詫びを。
大幅に遅れました。ほけの頭に言い訳もなし、ごめんなさい。そんな私を支えてくれた松本芳廣、鈴木武史、伊藤英雄、本島慎一郎、石野省三、間瀬亮太のメダカさんありがとう。感謝です。
■第16期の継続と申し込みについて
第16期は、平成20年9月1日から21年8月31日。既に申込み手続きが済んでいる生徒には申込み書は同封していません。申込み手続きしない生徒は、名簿からはずれ自主退学となります。ご注意ください。入学希望者がありましたらご連絡ください。資料と申込み書送ります。
■めだかの学校だよりの原稿を!
次回の発行日は11月1日、原稿の締切りは10月20日(火)です。事務局まで郵便かFAXで。メールの方は、
「mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp」
間瀬亮太090・5009・0986です。(メールの方は割付の関係もあるので一報を)。
■めだかの学校の事務局
〒438-0105 静岡県警田市家田52番地20 榊原幸雄方 TEL0539・62・6691 (FAX同じ)
※学舎「みどりの郷」には電話はありません。連絡・お問合せは事務局へ。

